

## 2. 変わり始めた道と地域の関係

■ 新たな取り組みはすでに始まっている

### ◆ 道の駅



地域産業の場



情報発信の場



体験・学習の場



レクリエーションの場

### ◆ 未知普請



社会貢献・社会参加の場

### ◆ 社会実験



オープンカフェ



空間の有効活用

### ◆ とるば



立ち止まり景色を楽しむ道

### ◆ 景観緑三法

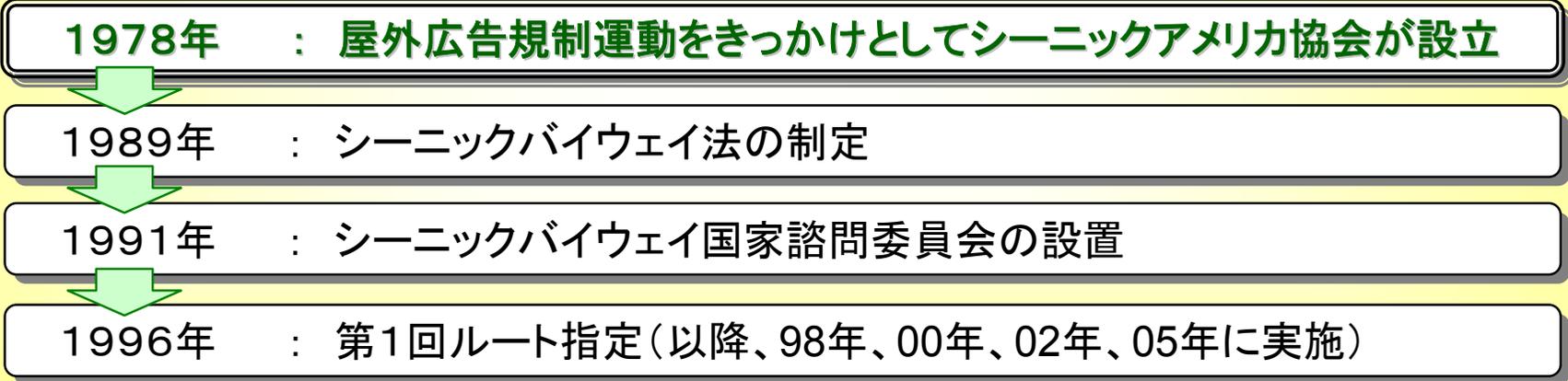
### ◆ 標識ガイドライン

道の機能の  
ルネッサンス

# 3.屋外広告対策に始まった米国シーニックバイウェイ

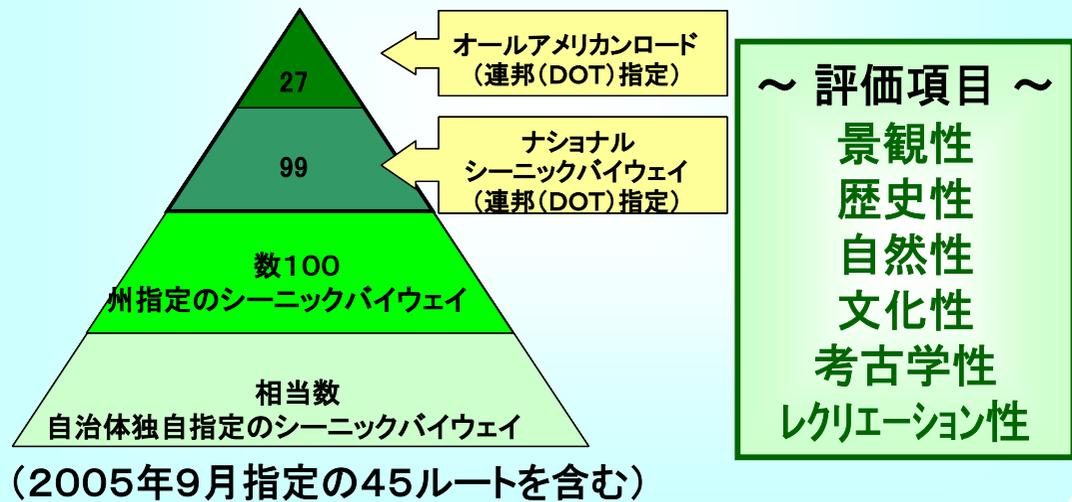
## 取組の経緯

◆屋外広告対策を発端に、米国のシーニックバイウェイの取組は開始された



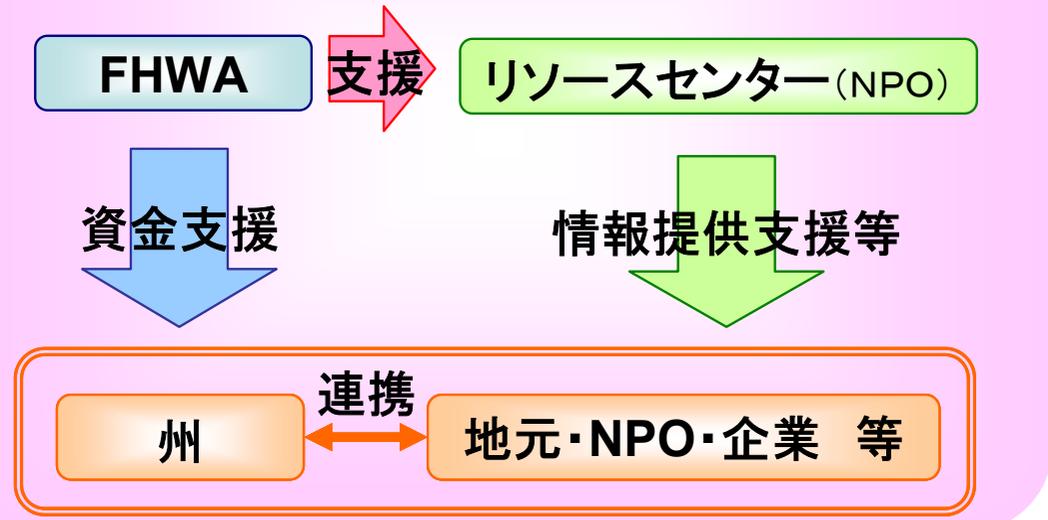
## 指定ルート数

◆ 現在、連邦指定のルートは、126ルート



## 取り組み体制

- ◆ 多様な主体が各地域で参加、活動
- ◆ 行政だけでなくNPOからの支援体制も構築



# ルートイメージ

- ◆活性化: 地域内の魅力的な多くの資源を結ぶようにルートが形成されている
- ◆広域性: 道路だけでなく、周辺の公園や観光資源等を含めた範囲を面的に指定している



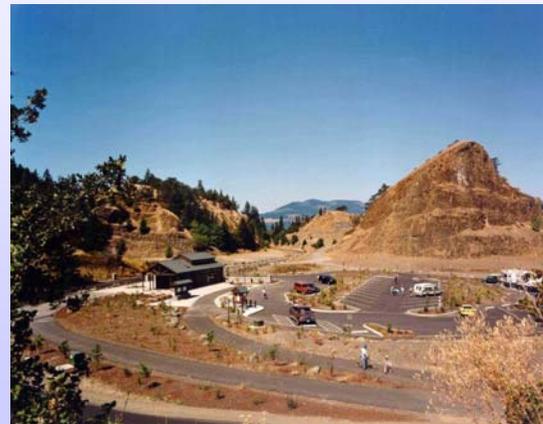
地域住民による計画立案



花壇の設置



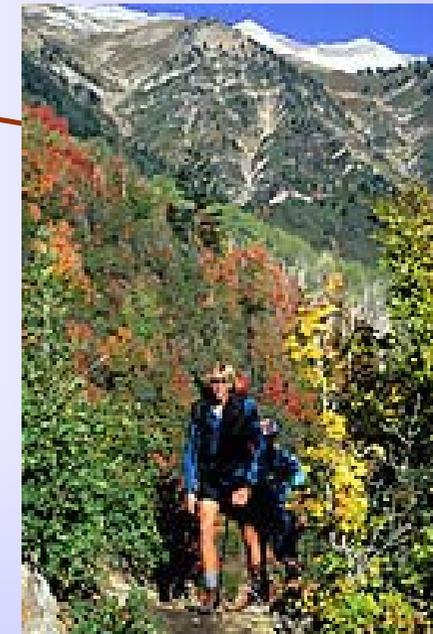
自転車道・整備



駐車場の整備



ビューポイントの整備



散策道の整備

# 活動内容例

◆多様性:さまざまな主体が、各々の活動分野・領域で活動を実施

## <ボランティアの活動例>



沿道の清掃活動



アダプトロードの活動を実施するボランティア活動組織名を示す看板  
(左:企業 右:個人)

## <行政の活動例>



ロゴの作成

(左:連邦政府 右:各州)



パンフレットの作成

## <沿道・民地内での活動例>



案内板の設置(公園内)



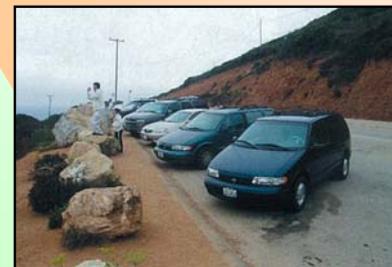
看板の改修・撤去



木製ガードレールの整備



ビジネスとの連携  
<簡易宿泊施設の設置>



沿道駐車帯の整備

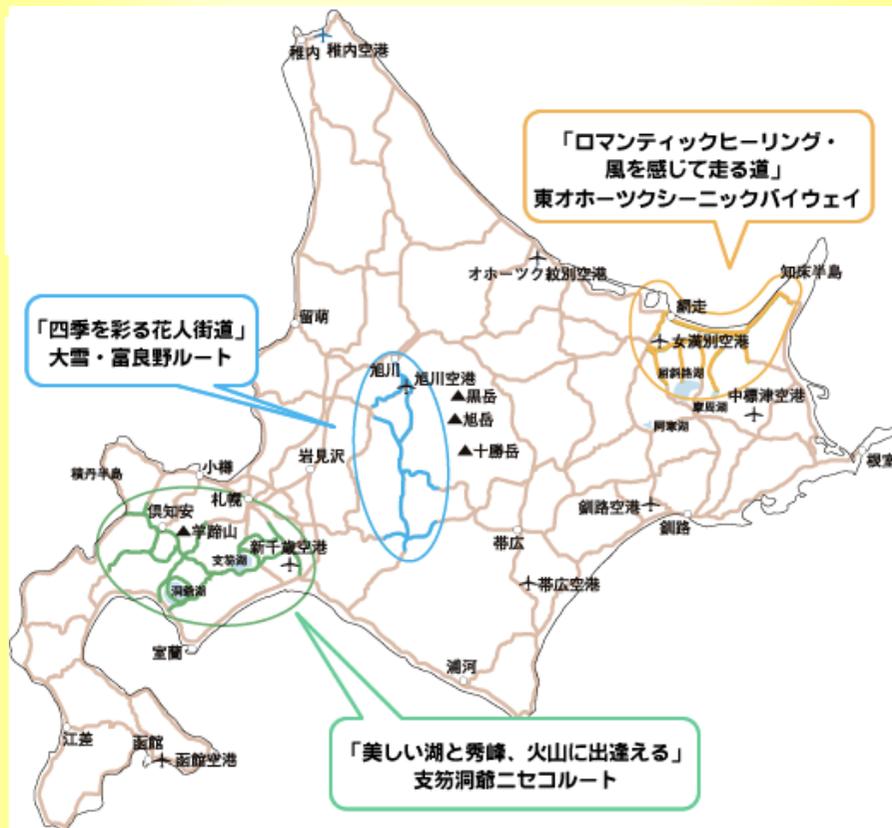


観光スポット等を示す案内表標識

# 4.北海道でシーニックバイウェイを展開

## 取組状況

- ◆ 2003年より展開を開始し、これまで3つのルートが指定されている



## 活動内容例

- ◆ 官民が役割分担により活動を実施（道路区域内は行政が、民地内やソフト事業は地域が実施）

### 地域の活動(例)



景観診断



カフェデッキ



情報拠点の運営



バスツアーの企画・実施

### 行政の活動(例)

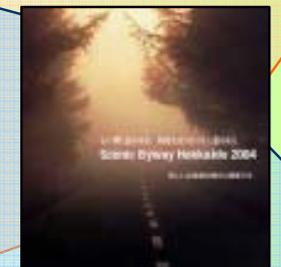
#### 協働活動(例)



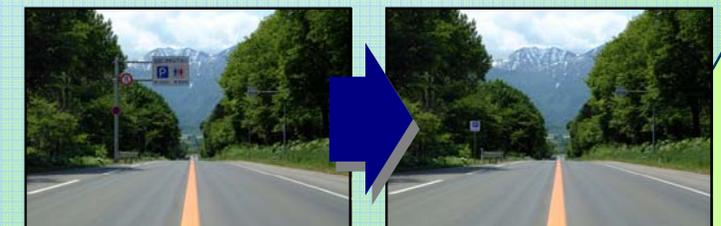
ビューポイントの整備



広報・PR活動



電柱の片寄せ



標識の縮小